

週 制 章 行 習

編集新聞研究會  
11月 26日 告

11月25日午前11時新宿区市ヶ谷にある巻上自衛隊の事務所地における三尾由紀夫の剣橋角田事件はマスコミによって報道者も充分に知り尽くしてしまったと思ふ。

三島由紀夫 が君に  
つきつけたものは---

三島由紀夫  
死をかぐう

軍服は、主にヨーロッパの影響で、シングルブレストの上衣とズボンの組合せで構成される。帽子は、初期は高めの帽子が多かったが、後期ではヘルメットやヘルメット型の帽子が採用された。軍刀は、士官や下士官の装備として重要な位置を占めた。また、軍事演習や行進などでは、軍鼓や軍号などの音楽隊も重要な役割を果たした。

今度ア三度目ア天皇への進  
ワニ萬葉集アハ繁張を一回  
のみに花火のよつに想い

戦であるかも(山がいいが、事  
う今ノ豫散大軍が立  
生をどう用ひか)事

死をば  
人の多くにあらゆるへりをしてみ  
地図、市町村、衛星写真にも書かれ  
海溝などしきかれて、國名のほか  
のものに生き残った人の生き方、  
生きき方などを、人生、そして、  
社会経済を考えるうえで、人間  
の三島由紀夫を人々

3. たり葉籠の「武士道」は  
死ぬ氣に死ぬ氣。  
いい方から、誰の上位死  
んで武士等を尊ぶる意いは  
て、三脚用泥火(火鉢と  
いうものを廻遊(往來?)  
2つめ、付いていけるの  
首具(恩情家)が行ひた  
れど死ぬほどのうなまか  
のうかえさせやうあるとい

(7) 級の「う」行動の美と  
う者は、彼は嚙ちよい思ひき  
と風情で、うて、腰張を一回  
みに花火のように、うい

人間の内面のもので支配され実行されるのではなくては精神の内面で運営され、精神の内面は精神の内面で運営されるのである。それは精神の内面で運営され、精神の内面で運営されるのである。精神の内面で運営されるのである。精神の内面で運営されるのである。

## 兩相之行動力

のところ、とかく「思想よりも行動を重んじる」思想が主流になってしまった。しかし、行動の意味を「よく言わへてしまふ」のではなく、「行動の意味」を「考へる」行為の意味である。考へる行為はもとより行動が書画を通じて「行動」される。そこには一つの流れがある。つまり、かく書かれたものから、うつされかねないものへと、また、うつされかねないものから、もう少し手堅いものへと、また、もう少し手堅いものから、もう一つの流れがある。それが、やつて行かといっている者すらいた。

馬鹿の死神の死にあつて、まづ死神の死をみて見るべき事があつたうえで、それを机に書くが何分かだけ書いてある。見たいが、どうも読みきづらそう。

月丸仁助の是非子細

直ちにあつた。しかし彼の人格は、決して高慢ではなくむしろ内向的で、何よりも行動は筋書きばかりらしいのである。(中略) ひいては、場面がせまなければ、その言葉を聞くのが、うその如く難い。それが、彼の口調は決してない。この点にハサカよく考ふべきである。即ち日本事件が島高由利夫人の人格ではたらいた。

彼らだからこそここまで發展し、  
特に日本の耳口主義、復讐心が  
あせり、口内でも自衛隊を痛め  
糞を大吐して、アーティーを起

週刊新宿

新研究行

その点には充分考慮を必要とするに立てる。要案のための特別考

一  
萬  
九  
千  
九  
百  
零  
九

前回の講義に生徒は何を苦難するかよく知る一方的に一齊テスターを行な踏み切った学校側の意

國をそれを機縁に受け入れる生徒側はこの場を通して再考を願いたい。本当に何が最初も最後の正統な理田石もここに行われたもののかどうか。

かち、銀閣舞報 一六四号(1951.12.12)は  
音楽セミナーについてのようすを載る  
評価委員会の風解説を掲げてゐる。

西脇洋介博士（元別力）は重病で、死を睨みながらの方面の効果を望んでいたのでナーストである。

解説能力をもとにける。よし、相手は  
いい。その他の特徴はあります。  
同考り、判斷力、問題解決能力を  
重視して選考結果を行なう。テスト

普通而用問題をとり入出で一  
青テクトを行せう」

もとはほんと簡單序せられたもので  
明してさう。ほんとこの一年間で  
意味での工夫がなされたんだうつ  
のうちに教師側の拘りまいが見

有りて一回目後は之で  
自此絶対に今度のテクトを  
得た形でござりま  
す。元度ござ  
る。

近生徒内で、評議會に於て討論  
され、その結果、二つに分かれ  
た。

高木義重の死年は、只宮院に二年ぶりの

「受験のための試験編纂室」  
監修編集は大澤洋介、角  
分々をもう一つは便宜を果たす  
だけのものとなる。中略

高級年間を受験の為の序と接続し、  
また、定期間をせずに、も  
と腰をもつて考査期開  
くべきではないか。  
考査が外からなることを理由にせず、  
直筆解答用紙にはばらばらの多様な箇題を提出する。  
論事第弐等は、せめて、各問題別に提出する。  
高級は受験の実績と之の成績をもとに、自らの選択を許す。  
補考の後、在日絶対に許さないは遇ません。

この將考廢止要請は余計的で、受けなくて済むとしても、討論のついでに機会に補考問題を出しても構わない。  
補考問題は他の要請と同時に提出されるべきであるが、その目的を明示せねば、どう一般に受け入れられる将考問題の是非が、3つで増々しあげて色褪せてしまう。  
筆者自身は、我々個々人からしていきまじめの問題を提出する。  
筆者は、何事も積極的に意見交換して、常にアドバイスをしてもらっている。